

第 76 回定期総会

渡部 孝樹 会長挨拶

本日ここに、全国町村議会議長会第 76 回定期総会を開催いたしましたところ、富樫総務副大臣、竹内衆議院総務委員長、宮崎参議院総務委員長 並びに吉田全国町村会長におかれましては、公務きわめてご多忙の折にもかかわらず、ご臨席を賜り、厚く御礼申し上げます。

また、都道府県会長の皆様には、遠路、ご出席いただき、誠にありがとうございます。

本日の総会では、議事に先立ち、表彰式を挙行いたします。

表彰を受けられる皆様は、永年の議会活動を通じて地方自治の振興発展に顕著なご功績があった方々です。

また、町村議会表彰、町村議会広報表彰を受けられる議会は、全国の町村議会の模範となる活動が評価された団体であります。

本日の表彰は、皆様方の地道な活動の賜物でございます。改めまして敬意を表しますとともに、心からお祝いを申し上げます。

さて、昨年末に決定した「令和7年度地方財政対策」においては、物価高、人口減少が深刻化する中、社会保障関係費の増加はもとより、人件費の大幅増、地方創生の再起動等に係る歳出増を踏まえ、前年度を上回る一般財源総額 63.8 兆円が確保されました。

また、地方交付税総額についても前年度を上回る19兆円が確保され、かつ、臨時財政対策債の新規発行が計上されないなど、地方財政の健全化が大きく図られる内容となっております。

村上総務大臣をはじめとする関係者の皆様のご尽力に対し、この場を借りて、厚く御礼申し上げます。

現在、開会中の国会において速やかに予算が成立いたしますよう、さらなるご尽力をお願いいたします。

本年は阪神・淡路大震災から 30 年の節目の年に当たります。

私も1月17日兵庫県神戸市で行われました30年追悼式典に出席をし、震災の経験と教訓を基に、安全で安心して暮らせる地域づくりの重要性を再認識しました。

また、令和6年能登半島地震から1年以上経過しましたが、今なお多くの住民が避難生活を余儀なくされ、東日本大震災の被災地では、復興の総仕上げの段階へと進みつつありますが、今なお課題が山積しております。議長会としても課題解決に向け、要望活動を展開していきたいと考えております。

さて、現在、町村議会が直面している最大の課題は、議員のなり手不足問題です。

地域の将来のため、若者を含む多様な人材が参画する議会を実現していくには、低額な議員報酬の適正化、厚生年金への地方議会議員の加入や主権者教育の推進は最重要課題であります。

私としましては会長の皆様と密接に連携しながら、その課題解決に向けて鋭意活動を展開して参りたいと存じますので、皆様におかれましても地元選出国會議員等に対し強力な要請活動をお願いしたいと存じます。

ご来賓の先生方におかれましては、特段のご高配を賜りますようお願い申し上げます。

結びに、47都道府県町村議会議長会をはじめ、全国926町村のますますのご発展と、ご列席の皆様のご健勝を祈念いたしまして、開会のあいさつとさせていただきます。

令和7年2月5日

全国町村議会議長会会長 渡部 孝樹